

## 「二つの家」(要旨)

### 聖書箇所：マタイ 7:21~29

#### 【1】 二つの家

主イエスの「山上の説教」に登場する二つの家は、同じ材料で建てられ、外観に違いのない家でした。そのような二つの家が、同じレベルの豪雨、洪水、そして暴風にあいます。ところが、賢い人が建てた家はびくともせず、愚かな人が建てた家は木っ端微塵に倒れたのです。二つの家は何が異なっていたのでしょうか。それは土台でした。一方は岩の上、他方は砂の上に建てられたのです。違いはただそれだけでした。災害さえ起こらなければ、二つの家は同じように立ち続けました。思いがけない出来事に遭遇した時に、家を支える土台の違いが明らかになったのです。なぜ人は、砂の上に家を建てようとするのでしょうか？それは、岩の上に建てようが砂の上に建てようが、側から見れば同じに見えるからではないでしょうか。同じならば少しでも楽な方を選びたくはなりません。しかし神はその違いをご存じです。私たちが人の目ではなく、神に対して誠実に歩もうとしているか、神はご覧になっています。

#### 【2】 賢い人

主イエスのたとえ話に登場する「賢い人」たち。彼らは、世間一般の人がイメージする「賢い人」とどう違っていたのでしょうか。災害に備えて堅い土台の上に家を建てた人(7:24-25)、主人がいつ帰っても良いように備えるしもべ(24:45)、そして花婿の迎えるため必要な油を準備した娘たち(25:2-9)。彼らに共通していることは、「時」を意識し、それに備えていた、ということです。災害、主人の帰宅、そして花婿の到着の「時」に備えました。他方、「愚かな人」たちも登場します。彼らは「時」に無頓着で自分の都合を優先しました。「賢い人」は自分の想定の世界を認め、教えられたことに素直でした。一方「愚かな人」たちは、自分の経験や知識に

自信を持っていました。私たちはどうでしょうか。「イエスの教え(みことば)に異論はない。しかし従うのは今ではない。今はタイミングがよくない。」自分の経験や知識によって、みことばに従うのを後回しにしているませんか。

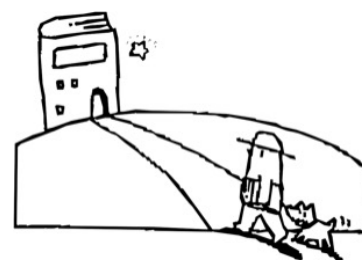
▷主イエスの教える賢い人は、素直に「わたし(イエス)のこれらのことばを聞いて、それを行う者」(24)です。

#### 【3】 みことばを「行う」

「山上の説教」もいよいよ終盤です。彼らはこれまで聞いたことのない「権威ある者」(29)の教えに惹きつけられました。家族にどんなお土産話をしようかと考えた群衆もいたことでしょう。その説教の最後は「警告と勧告<sup>1</sup>」でした。二つの道(13-14)、二つの木(15-20)、二つの告白(21-23)、そして二つの土台(24-27)。イエスはどちらを選ぶか、群衆に選択を迫りました。その鍵言葉が「行う」(ポイオ)でした。

イエスは群衆に、他では聞けない説教を聞いた、とただ満足するのではなく、それを「行う」ようにと「勧告」しました。そして「その日」すなわち裁きの「時」に備えるよう「警告」しました。「その日」には、イエスの弟子然として「主よ、主よ」と叫ぶことやカリスマ的な働きも何の役にも立たないからです(7:21-23)。

▷みことばを「行う」とは、特別な時に特定の人が行うことではありません。自分の家の土台を掘り進める作業のように、神とあなたの関係の中で静かに進められていくことです。人の目に映る自分ではなく神の前に映る自分の姿を見つめ、応答する作業の繰り返しなのです。教えられる心をもって聖書に聞き、それを行っていきましょう！



<sup>1</sup> Hultgren Arland, *The Parables of Jesus*, 134